## 関東地方整備局 1/1

路側線

低騒音舗装

延長の老させ

平成 15年度道路環境センサスデータ 一覧表

下表は、平成15年度道路環境センサスとして直 |轄国道で行った調査結果を調査地点別に表示したも のである。

騒音の新環境基準との比較は、全ての調査地点を 対象に行っているが、調査地点において環境基準の |類型指定がなされていない場合は、超過・非超過の |状況を()付きで表示した。

表示順位は、都府県支庁指定市別、路線番号別、 調査単位区間番号の順で並べた。

「 - 」は入力データが無いことを示す。

環境基準、要請限度超過・非超過状況 : 非超過 × : 超過 ( ):環境基準類型指定または 騒音規制区域指定の対象外 瀬戸規制に増加を 環境基準:昼間70dB 夜間65dB 要請限度:昼間75dB 夜間70dB

車線数は、併設道路を含む。(12欄) 環境基準類型、騒音規制区域の指定状況は、

: 指定有り 空白: 指定無し とした。(13~14欄)

環境基準の類型指定延長は、上下車線別に求め、その合計を2で除した。(17欄) 環境対策設置延長は、上下車線別に設置された延長の合計となっている。(23~27欄) 遮音壁高さ(28欄)は測定地点における値のため、設置延長の有無にかかわらず「-」と表記される区間もある。

舗装種別は以下に示すとおり(22 欄) 密粒As : 密粒アスファルト 排水性As: 排水性アスファルト その他As: その他のアスファルト

コン/リート : コンクリート その他 : その他

沿道建物の状況は以下のとおり(31~32欄)

調査種別番号(33欄)は以下のとおり

1:平成15年度実測 5:前年度データを補完

| 両側 : 両側に建物がある | 測定側: 測定側のみ建物がある 反対側:測定点の反対側のみ建物がある 無 :両側とも建物がない 不明 : 不明

環境施設対設置延長(35~44欄)は以下のとおり記載する。 環境施設帯:小数点以下 2 桁を四捨五人 遮音壁 : 小数点以下 2 桁を四捨五人 ・通常の場合は入力不要。新型遮音壁の場合は、 できるだけ詳しく種別を入力。 「新型遮音壁」は不可。(例)ASE遮音壁 高さ : 四捨五入により整数とする。 高架裏面吸音板: 小数点以下2桁を四捨五入 低騒音舗装: 延長の考え方は右図参照。少数2桁を四捨五入 対 策予定記 低層遮音壁:小数点以下2桁を四捨五人 その他:小数点以下2桁を四捨五人 載 方法

40m

30m ▶	<del></del>	は、大いちんり
2000000000000000		- 中央線
延長 = 延べ延長	50+ 40+ 30	- = 40m
 車線数	3	- 40111

事務所コード	路線名		No.		超	環境基準 過・非超過			・レベル (dB)	測定域 の 車 指定域	· 相	測定位置 情報 区間	区 環境 間 基準の	竟!の 評価	沿	道路条件			環境対策設置延長(km) <mark>現況 H15調査時</mark> [片側換算]					語	評価対象地域内環境対策設置延長(km) 現況 H15調査時 [片側換算]			併設道路	路	沿道建物	測定データ		
		地点名	都道府 県支庁 指定市 コード	調査 単位 区間 番号	内星	<b>階間</b> 夜間	昼間 夜間	昼間 Leq	夜間 Leq	線 環境 基準 類型	騒音 規制 の中央 距離	定点側 )車道 央との (I 離 (m)	延 長 定 km) (kr	指 延長 長 (km)	状況	道路 敷幅 (m)	道路 形態	舗装 種別	環境 说施設 帮	高架面音板	低 騒音 舗装	新型 遮音 壁	低層 遮音 壁	望高さ 環(m) 施帯	意 遊 登 章	高架 裏面 吸音 板	低 新騒音 遊舗装	型 低層 語 遮音	併設 道路 の 有無	道 測		調査実施を対する。	削 査 夏
03	一般国道17号	群馬県佐波郡境町下淵名143-1	10000	11002	1	× ×	×	74	75	2	8	8.5 4	4.0	00 4.00	平地部	31	平面	密粒As	0 (	0	0	0	0	- (	0	0	0	0 0	無	- ;	無無	5 200	)1